

# 6 心豊かにつながり 学び合うまちをめざす

- 6-1 地域とつながる学校教育の推進
- 6-2 地域を支え育てる人材の育成
- 6-3 地域を育む社会教育活動の推進



## 政策 6-1 地域とつながる学校教育の推進

### 6-1-1 教育内容の改善と 向上

教育内容の充実に合わせて、教育環境や体制の整備を進めます。

基礎学力の定着	学力向上に向けた体制の整備	授業力の向上	豊かな人間性の育成	体力の向上と健康教育	特別支援教育の充実
---------	---------------	--------	-----------	------------	-----------

### 6-1-2 教育環境の向上

教職員と地域のネットワークづくりを進め、学校教育環境の向上に努めます。

課題のある児童・生徒への対応体制の強化	教育の機会均等の保障	学校施設の整備	教職員住宅の整備・更新	小学校の再編統合	学校給食の充実
---------------------	------------	---------	-------------	----------	---------

### 6-1-3 地域と学びあう学校 教育の推進

豊かな地域資源を活かして、学校と地域が学びあう関係を築きます。

開かれた学校運営の実現	「ふるさと学」の振興	高校教育の振興	幼児教育の振興
-------------	------------	---------	---------

## 政策 6-2 地域を支え育てる人材の育成

### 6-2-1 地域資源を活かした 交流活動の充実

地域の課題をとりあげた学習活動を通じて、地域を担う人材の育成を図ります。

地域を学び、地域を考える	地域とつながる世代間交流の実践	児童・生徒の体験活動の振興
--------------	-----------------	---------------

### 6-2-2 生活習慣を育む家庭 教育力の向上

保護者の学習とネットワークづくりを図ることにより、家庭の教育力の向上を推進します。

「親の育ち」を応援する学習機会の充実	地域教育力の向上
--------------------	----------



# 政策 6-3 地域を育む社会教育活動の推進

6-3-1 公民館を活用した生涯学習の充実  
公民館を活用した生涯学習の充実

公民館を活用した学習機会の提供と実践を行い、芸術文化活動といった生涯学習を推進します。

生涯各期に合わせた学習機会の提供	地域コミュニケーションの推進	芸術文化の支援体制の推進
------------------	----------------	--------------

6-3-2 健康づくりとスポーツ活動の推進  
健康づくりとスポーツ活動の推進

スポーツをする機会の提供や環境整備を図り、年齢に応じたスポーツ活動を推進します。

生涯スポーツ推進と交流の実践	指導者の育成と確保	施設設備の整備と維持
----------------	-----------	------------

6-3-3 暮らしに寄りそう魅力的な図書館の運営  
暮らしに寄りそう魅力的な図書館の運営

くつろげる憩いの場をめざすとともに、地域に根ざした図書館運営を図ります。

町民と築く魅力的な図書館づくりの推進	情報拠点としての体制整備	効果的な読書活動の推進	学校支援の強化
--------------------	--------------	-------------	---------

6-3-4 自然と歴史を守り、学ぶ博物館活動の推進  
自然と歴史を守り、学ぶ博物館活動の推進

研究成果を社会に還元しつつ、情報発信や組織体制、施設の充実、整備に努めます。

活発な利用と資料の長期保存できる施設の整備	幅広い情報発信と郷土学習機会の提供	調査・研究・交流の推進	博物館資料・文化財の公開と活用の推進
-----------------------	-------------------	-------------	--------------------



# 6-1-1 教育内容の改善と向上

重点施策10

## 現状と課題

教育活動を通して子どもたちが将来一人の社会人として生きていくための基礎的な学力や体力、人間性を身につけることが必要であり、そのための十分な体制づくりが大きな課題となっています。

特に学力の低下が大きな課題となっており、学校・家庭・地域が一体となって学力向上に向けて連携することが求められています。

また、特別支援教育については、一人一人の状況に応じた対応が求められており、国・道による体制整備とあわせて今後の対応の検討が必要です。

## 目的・目標

「確かな学力」「豊かな人間性」「健やかな体」のバランスのとれた力を育てるため、多様な教育内容の充実に向けて、地域の人材や補助制度などを活用し、教育環境の整備を進めます。

特に学力の向上にむけて、体制整備や教員の学びあう環境づくりを進めます。

## 単位施策

	単位施策名称	内容	町民参加・協働
1	基礎学力の定着	少人数学級のための臨時教員、英語のコミュニケーション能力の育成を目指しての英語指導助手、習熟別指導やチームティーチング*のための支援講師などを配置し、よりわかりやすい授業を目指します。また、子どもたちの家庭学習が生活習慣として定着するように取り組みを進めます。	 参加・協力・連携・協働 中
2	学力向上に向けた体制の整備	社会で自立して生きていくために必要な確かな学力を保障するため、学力向上推進委員会を設置し、学力向上推進推進計画の作成、指導力向上のための企画・推進、調査・研究等を行います。	 参加・協力・連携・協働 小
3	授業力の向上	指導主事を教育委員会事務局に配置して学校との連携を強化するとともに、校内研修体制の充実や研修への参加などを通して、教員が学びあう環境づくりを進めます。また、教職員自身が地域とのつながりを深められるよう、研修機会の充実を検討します。	 参加・協力・連携・協働 中
4	豊かな人間性の育成	「総合的な学習の時間」での体験活動や、「道徳」や「教育相談」等の機会を通して、児童生徒の発達状況に応じたコミュニケーション能力の育成や社会のルールやマナーを学ぶ活動の充実を図ります。	 参加・協力・連携・協働 中
5	体力の向上と健康教育	児童・生徒の「基礎体力づくり」に取り組むとともに、歯の健康づくりや、栄養教育など健康課題への教育活動を進めます。	 参加・協力・連携・協働 中



	単位施策名称	内容	町民参加・協働
6	特別支援教育の充実	支援員の配置や校内委員会の整備とともに、特別支援教育連携協議会を核とした小中学校と保育所、高校、福祉機関等との連携を進め、特別支援教育を必要とする児童・生徒の成長に合わせた体制づくりをめざします。	

## 成果指標

		H25	H30	H35
1	全国学力・学習状況調査の全科目平均 (全道対比 上段:小学6年生・下段:中学3年生)	△15.2% △19.4%	同等 同等	同等 同等
2	平日の家庭読書の時間～30分以上 (上段:小学6年生・下段:中学3年生)	32.5% 28.5%	50.0% 50.0%	55.0% 55.0%
3	家で自分で計画を立てて勉強する(している・どちらといえばしている) (上段:小学6年生・下段:中学3年生)	43.0% 47.9%	55.0% 55.0%	60.0% 60.0%
4	平日の体育の時間をのぞいた運動やスポーツの実施頻度(「週1～2回以上」の男女平均 上段:小学5年生・下段:中学2年生)	72.8% 82.8%	80.0% 85.0%	80.0% 85.0%



特別支援教育支援員



## 6-1-2

# 教育環境の向上

### 現状と課題

近年学校には、いじめやコミュニケーションにかかるトラブル、子どもたちの体力や成長にかかる不安、児童虐待への対応といった生活環境への対応など、多くの役割が求められており、かつ年々多様化しています。これに対して教職員一人一人の多様な能力の向上とともに、教職員およびそれをサポートする外部の人材を含めた「学校」としての教育力の向上が求められています。

また、多くの教職員住宅で老朽化が進んでいることから、計画的かつ効率的に整備する必要があります。

子どもだけで食べる「孤食」、手軽に購入した簡易的な食事、アレルギーの問題など子ども達の「食」に関する不安が高まっており、子どもたちの豊かな成長を保障する上でも学校給食の重要性が高まっています。

### 目的・目標

学校の総合的な教育力の向上に向けて、教職員だけでは困難な事例での地域の専門機関や人材とのネットワークづくりを進めます。

小学校の再編統合をふまえて、必要な学校施設の整備や教職員住宅の確保・更新を計画的に進めます。

### 単位施策

	単位施策名称	内容	町民参加・協働
1	課題のある児童・生徒への対応体制の強化	いじめや不登校等の学校で生じるトラブルに対し、早急に対応できるよう校内体制を整備するとともに、S S W (スクールソーシャルワーカー)を核にして、福祉機関等地域との連携をすすめます。	 参加・協力・連携・協働 中
2	教育の機会均等の保障	経済的な理由での就学格差が生まれないよう就学援助体制を整備します。また遠距離通学児童生徒の通学に伴い必要なスクールバスの運行など通学対策を充実します。	 参加・協力・連携・協働 小
3	学校施設の整備	学校施設の耐震化や各校の設備更新等を、老朽化が著しくなる前に計画的に整備します。特に課題となっている斜里中学校の外構・グラウンド、斜里小学校・朝日小学校の設備更新、パソコンなどの学校備品の更新を進めます。	 参加・協力・連携・協働 小
4	教職員住宅の整備・更新	老朽化の著しい教職員住宅を廃止するとともに、民間住宅借上げ方式など効率的な方法を導入しながら計画的に教職員の住環境を整備します。	 参加・協力・連携・協働 小
5	小学校の再編統合	中学校への移行課題の軽減や、学習環境の学校間格差の解消など、児童の学習環境の改善と安全性の確保に向けて、小学校の再編統合をはかります。	 参加・協力・連携・協働 中



み  
ど  
り

し  
ご  
と

ま  
ち  
な  
み

く  
ら  
し

い  
き  
い  
き

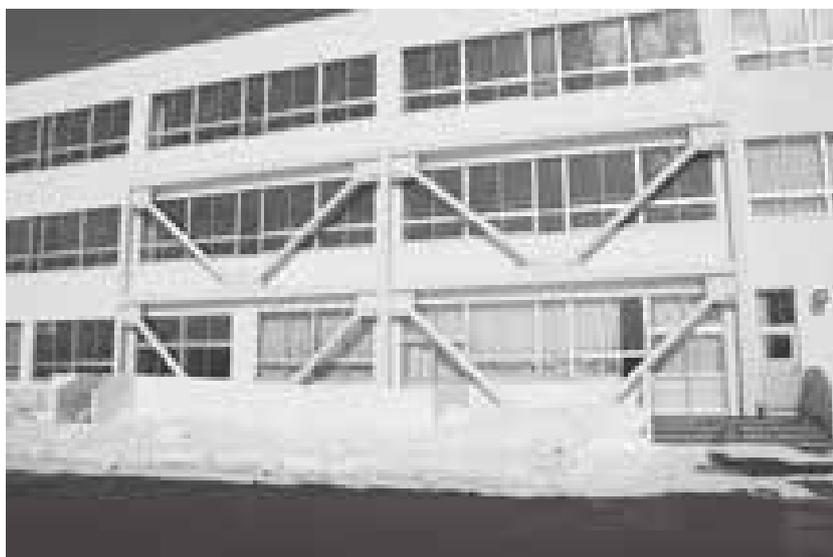
ま  
な  
び

ち  
ょう  
み  
ん

	単位施策名称	内容	町民参加・協働
6	学校給食の充実	安全・安心な給食の提供に向けて、老朽化の進む給食センターの設備更新を計画的に進めるとともに、地場産品の利用や、美味しい給食に向けて提供方法の工夫・検討を行います。また、近年増加している食物アレルギーをもつ児童・生徒に安全を最優先に対応する体制を整えます。	

### 成果指標

		H25	H30	H35
1	斜里町立学校図書整備割合(文科省基準比:全校平均)	64.9%	70%	75%
2	築30年以内の教職員住宅戸数割合(対教職員数割合)	58.9%	65%	70%
3	学校給食における斜里町産品の割合(金額ベース)	8.9%	9.5%	10%



斜里中学校耐震化

学校給食





# 6-1-3 地域と学びあう 学校教育の推進

## 現状と課題

少子高齢化、核家族化、共働きの増加などの家庭と地域の変化、携帯型ゲームの普及による遊びの変化、携帯電話やSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の普及など、子ども達をめぐる環境の変化が著しくなっています。

特に子どもたちの自然発生的な地域での体験活動が失われ、ふるさととしての斜里を知る、斜里の人たちと触れ合う活動が減少していることは子どもたちの成長の上で大きな課題です。

また、逆に地域から子どもの姿が減少していることが、地域の活力を失うこととも繋がっており、地域と学校との連携が求められています。

## 目的・目標

様々な学習機会の指導者や環境整備ボランティアなど地域人材を学校に迎え入れるとともに、地域の各種機関や施設などとの交流を進め、学校と地域が学びあう関係をめざします。

また、私立幼稚園・道立高校と町立小中学校との連携を深め、小中高それぞれの入学時の課題の軽減や、共通した課題での進展を図ります。

## 単位施策

	単位施策名称	内容	町民参加・協働
1	開かれた学校運営の実現	学校運営協議会による評価をはじめ、学校への読み聞かせ活動や地域人材を講師に招いた授業の推進など、学校に地域人材が関わっていく機会を増やします。	 参加・協力・連携・協働 中
2	「ふるさと学」の振興	各校の特色を生かした「総合的な学習の時間」や「知床自然体験学習」など、「地域資源」を活用した地域学習を通して、「斜里町」の魅力に触れ、「ふるさと」に親しみを持つ教育を推進します。	 参加・協力・連携・協働 中
3	高校教育の振興	斜里高校の魅力ある学校づくりのため、クラブ活動、学力向上、通学費助成といった環境整備や、博物館や行政、民間企業による教育内容への支援等を進めます。また、高校生による中学校訪問といった他校種間交流や、地域への開放講座の実施など高校の持つ教育的効果が地域に還元できるよう、連携をさらに深めます。	 参加・協力・連携・協働 中
4	幼児教育の振興	幼児教育を支援するため、就学に関する協議や研修機会の情報共有などを通して連携をすすめます。	 参加・協力・連携・協働 中



## 成果指標

		H25	H30	H35
1	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある児童・生徒の割合 (当てはまる・どちらかといえば当てはまる)(上段:小学6年生・下段:中 学3年生)	45.3% 37.8%	50.0% 45.0%	55.0% 50.0%
2	地域資源を活かした学習の実施	100%	100%	100%



斜里高等学校



斜里高等学校授業

み  
ど  
り

し  
ご  
と

ま  
ち  
な  
み

く  
ら  
し

い  
き  
い  
き

ま  
な  
び

ち  
ょう  
み  
ん



# 6-2-1

## 地域資源を活かした 交流活動の充実

### 現状と課題

少子化・情報化・過疎化等により、地域社会の結びつきが弱まり、地域の教育力も低下している状況です。学校・家庭・地域の連携協力を強め、地域の多様な大人が子どもに関わりながら教育・交流活動を進めていくことが必要であります。

学生・青年層の地域活動への関わりが薄いことから、幅広い世代で地域に関わりを持てる繋がりづくりが求められており、また、地域全体で子ども達を守り育てていくためには、日常的に地域住民が学校に関わる状態をつくり、子どもを中心に据えた学校と地域の連携を深めていく必要があります。

### 目的・目標

社会教育機関が連携して、町民の居場所や活動拠点となり、また地域課題を取り上げた講座・講演会・事業などを通して、様々な地域活動に取り組む活動を支援し、地域を担う人材の育成を図ります。

特にこれからの斜里を担う児童・生徒の地域での体験活動を重視し、「生きる力」を育みます。

### 単位施策

	単位施策名称	内容	町民参加・協働
1	地域を学び、地域を考える	各施設の特徴を活かし、斜里特有の魅力に触れる活動、教育・福祉・産業などにおける課題を考える活動など、地域を知り、学ぶ活動を進めます。また、居場所・活動拠点として、地域活動に参加する人材を育成します。	 参加・協力・連携・協働 大
2	地域とつながる世代間交流の実践	サークル活動やボランティア活動、実行委員会への参加など、地域の事業と関わる多様な経験を通じて、斜里を基盤とした世代を超えた多様なネットワークの広がりが生まれるよう支援します。	 参加・協力・連携・協働 大
3	児童・生徒の体験活動の振興	各施設と、学校・PTA・地域自治会・団体などが連携し、自然教育・食育・木育など児童・生徒を対象とした様々な体験プログラムの充実を目指します。これら学習体験により得た「生きる力」を伸ばすように取組みます。	 参加・協力・連携・協働 大

### 成果指標

		H25	H30	H35
1	社会教育機関による講座・講演会の実施数	70回	75回	80回
2	講師データベースの登録者・団体数	20人 /団体	25人 /団体	30人 /団体
3	地域の行事に参加している児童・生徒の割合(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)(上段:小学6年生・下段:中学3年生)	60.4% 61.2%	65.0% 65.0%	70.0% 70.0%



## 6-2-2 生活習慣を育む 家庭教育力の向上

### 現状と課題

家庭は、家族とのふれあいを通じて、社会で生きていく上での前提となる生活習慣や社会的なマナー等を身に付ける重要な役割を担っていますが、核家族化・少子化等の家庭を取り巻く環境の変化の中で、親の育児不安の広がりやしつけへの自信喪失など、家庭の教育力の低下が問題となっています。

また、人間関係の希薄化などを背景に、子育て中の親同士が直接育児やしつけなどについて語ったり、学び合ったりする機会が減少していることや、気軽な話し相手がないことなど、子育てする親の孤独感や不安感、負担感が大きくなっているとの指摘もあることから、地域や社会全体で子育てを支援する取り組みを充実させていく必要があります。

### 目的・目標

子育て支援に関わる行政や学校などと連携して、保護者の主体性を尊重しながら、孤立しがちな保護者の学習とネットワークづくりを進めます。

### 単位施策

	単位施策名称	内容	町民参加・協働
1	「親の育ち」を応援する学習機会の充実	親自身の要望や願いに沿って親同士の学びあいや仲間づくりの機会を提供し、主体性に沿った企画や交流事業などを支援します。乳幼児期から高校までと子どもの成長に沿って変化する学習活動を提供・支援します。	 参加・協力・連携・協働 大
2	地域教育力の向上	社会教育施設が運営や取組みの中で子育て家庭が交流を持てるような「居場所」としての機能を持つことをめざします。また、子育て家庭を支援する人材の育成に取り組めます。	 参加・協力・連携・協働 大

### 成果指標

		H25	H30	H35
1	保護者を対象とした社会教育講座・講演の実施回数	5回	8回	10回
2	朝食を毎日食べる児童・生徒の割合(小3～中3対象、給食センターアンケート)	87%	92%	97%
3	家の人と学校での出来事について話をする児童・生徒の割合(よくしている・時々している)(上段:小学6年生・下段:中学3年生)	73.3% 68.4%	75.0% 75.0%	80.0% 80.0%



# 6-3-1 公民館を活用した 生涯学習の充実

## 現状と課題

地域の課題に対して、住民自らが解決に取り組むことができるようになるため、生涯学習の果たす役割が重要であり、生涯にわたってあらゆる機会に学ぶことができる学習環境の一つとして、公民館の活用が求められています。

地域課題等に主体的に取り組めるよう、多様な学習機会の提供や学習支援・相談体制の充実を図る必要があり、ホール機能を持つ公民館として、鑑賞機会の提供はもとより芸術文化活動の拠点として、各文化団体の育成・支援に取り組む必要があります。

## 目的・目標

地域や他の社会教育機関等と協力連携し、公民館に住民が集い、年代別・地域・生活といった幅広い課題に対応する学習機会の提供と実践を行い、生涯学習の活動を推進します。

また、芸術文化活動の意欲を高め、文化団体の育成や支援、優良な芸術作品への鑑賞機会の提供を行うなど、芸術文化活動を推進します。

## 単位施策

	単位施策名称	内容	町民参加・協働
1	生涯各期に合わせた学習機会の提供	社会情勢の変化に応じての年代別(乳幼児期・少年期・青年期・壮年期等)の学習要求・生活課題に対応した事業企画や学習機会の提供し生涯学習を推進します。さらに、学ぶ合う個々を仲間づくりへ結びつけ、学びの成果を人・まちづくりにつなげていきます。	 参加・協力・連携・協働 大
2	地域コミュニケーションの推進	地域の学校として、様々な関係機関と連携し本館・分館講座を充実し、サークル活動やマイプランマイスタディー <sup>※</sup> など自主的な学びの支援や老人クラブ活動などの支援を行い、個人・団体の地域活動支援を推進し地域・学校とのつながりを保ち、公民館ボランティアの協力関係も継続していきます。	 参加・協力・連携・協働 大
3	芸術文化の支援体制の推進	文化連盟・芸術文化事業協会と連携を図り、芸術文化イベントの仕掛け、町民主体の自主的芸術文化活動の育成と発表機会を支援する体制の充実を目指します。また、工夫のある町民の多様な催事に対応できるよう体制を整備し、音響・照明・舞台設備などの維持更新を図っていきます。	 参加・協力・連携・協働 大

## 成果指標

		H25	H30	H35
1	ゆめホール知床定期利用団体数	48団体	51団体	54団体
2	ゆめホール知床利用人数	80,934人	84,000人	87,000人
3	公民館講座数	1講座	6講座	12講座
4	公演・芸術文化講座数	5公演 12講座	6公演 12講座	6公演 12講座



## 6-3-2 健康づくりと スポーツ活動の推進

### 現状と課題

生涯スポーツに対する関心の高まりから、地域住民のニーズに沿った各種スポーツ教室や健康講座の開設と充実、スポーツ施設の整備が課題となっています。特に、老朽化したスポーツ施設の維持・管理においては、多様化するスポーツニーズに対応する計画的な運営と管理が必要であります。

また、健康づくりや体力づくりにおいて、それぞれのライフステージに対応した競技スポーツ・生涯スポーツ推進のためには、指導者の養成と確保、トレーニング設備等の環境整備が必要となっています。

### 目的・目標

気軽にスポーツに触れる機会の提供と指導体制及び施設整備の充実を図ります。

子どものスポーツ機会の充実、学校や地域等において、すべての子どもがスポーツを楽しむことができる環境整備を図ります。

また、ライフステージに応じたスポーツ活動を推進するため、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じ『いつでも・どこでも・楽しく・安全に』スポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会をめざします。

### 単位施策

	単位施策名称	内容	町民参加・協働
1	生涯スポーツ推進と交流の実践	スポーツ振興基本計画に基づき、誰もが気軽に楽しめるスポーツ・健康づくりの普及及び健康保持・増進のための支援を行い、幅広い世代のスポーツ活動等の充実をめざし、各学校や自治会地域と連携しスポーツ交流を実践できる体制を推進します。	 参加・協力・連携・協働 大
2	指導者の育成と確保	生涯スポーツの推進・普及を目的に指導者の確保と講座等のソフト内容の拡充をめざします。また、スポーツ少年団本部会や少年団等の各団体と連携し、競技スポーツにおける専門的知識をもつ指導者の確保と養成を行い、競技スポーツの充実を図ります。	 参加・協力・連携・協働 中
3	施設設備の整備と維持	体育協会や各单位協会と連携・協力して体育施設に関する情報収集を行い、老朽化した体育施設の計画的な整備・維持に努めます。また「安全・快適」な施設を目指すとともに、空き地や既存施設等の有効活用とトレーニング機器等の必要な設備の更新を行い、体育施設サービスの質と機能の向上を図ります。	 参加・協力・連携・協働 中



## 成果指標

		H25	H30	H35
1	公共体育施設の利用人数(体育館・プール・スケートリンク・パークゴルフ場・学校開放等の全利用者数)	81,786人	82,000人	82,000人
2	生涯スポーツ・健康づくり講座数	3講座	8講座	12講座
3	競技スポーツ講座数	2講座	4講座	6講座



ハマナスマラソン



パークゴルフ



海洋センタープール

み  
ど  
り

し  
ご  
と

ま  
ち  
な  
み

く  
ら  
し

い  
き  
い  
き

ま  
な  
び

ち  
ょう  
み  
ん



# 6-3-3

## 暮らしに寄りそう 魅力的な図書館の 運営

### 現状と課題

築80年以上が経過した施設での図書館運営は、図書館機能を十分に果たすための閲覧・学習スペースがなく、書架が密集し落ち着いて利用できない環境でした。

しかし、新図書館の建設により、ゆっくりとくつろげる空間ができることで、利用者の増加が見込まれます。これからの図書館では、古く狭隘な施設であったために行うことができなかった質の高いサービスが求められています。

町民一人ひとりが学び、憩い、そして集うことができる図書館へ転換するための取組みを進めることが今後の課題であります。

### 目的・目標

町民の暮らしに寄りそう図書館として、知的好奇心に応える資料と情報を提供する学びの場を整え、ゆっくりと滞在できる憩いの場をめざします。

また、地域の人が気軽に集まり、イベントや企画を行える交流の場として、地域に根ざした図書館運営の充実を図ります。

### 単位施策

	単位施策名称	内容	町民参加・協働
1	町民と築く魅力的な図書館づくりの推進	町民が有意義な時間を過ごすために、図書館を活用して町民に本の魅力を伝える活動を推進します。また、図書館活動や運営への支援を通じて、町民が図書館に親しみをもち、身近に感じてもらうために図書館サポーター制度を創設します。町民のニーズや生活スタイルの多様化に対応したサービスを行い、誰もが何度でも訪れたいくなる図書館をめざします。	 参加・協力・連携・協働 大
2	情報拠点としての体制整備	リクエストやレファレンス*・貸出など司書の専門性を活かした活動を通じて利用者のニーズを把握し、資料収集方針と中長期的な資料収集計画に基づき、12万冊の蔵書の維持と計画的な図書購入をすすめます。学校や社会教育施設・各種市民団体と連携し、様々な情報の収集・提供を行っていきます。	 参加・協力・連携・協働 中
3	効果的な読書活動の推進	従来から行っている幼児向けのブックスタートや絵本クラブ(家庭配本)事業に加え、今後人口比率が高まる高齢者の心豊かな生活作りのために、新たに宅配サービスを行うなど、各世代に応じた読書活動の支援を行い、生涯を通じて読書に親しむ活動を推進します。	 参加・協力・連携・協働 大



	単位施策名称	内容	町民参加・協働
4	学校支援の強化	児童・生徒にとって魅力ある図書室となるよう学校図書 の整備を支援し、読書の楽しさを広めるため学校との連 携を図ります。また、図書館職員が学校巡回を行うことな どにより密に情報交換を強化し、図書館と学校図書の相 互利用を促進します。	

## 成果指標

		H25	H30	H35
1	図書館利用人数	18,000人	27,000人	31,500人
2	町民一人あたりの貸出冊数	7.42冊	8冊	8.5冊
3	絵本クラブ(1~5歳児対象)への加入割合	16%	22%	28%
4	図書館ボランティアの活動回数(学校での読み聞かせ、「声の広報」活動、 保育所巡回等)	250回	280回	310回
5	学校からのリクエスト・テーマ別貸出の冊数	320冊	400冊	480冊



新図書館イメージ図



現図書館



# 6-3-4 自然と歴史を守り、学ぶ 博物館活動の推進

## 現状と課題

知床博物館は30年以上にわたって、町民はもとより多くの  
人々に情報や資料の提供を行い、その後、姉妹町友好都市交流  
記念館が併設されたことで、人や地域の交流と絆を深める場と  
しての機能も果たしてきました。これからも、最新の情報を発  
信し続け、地域や学校などと緊密に連携して郷土の歴史や世界  
自然遺産知床の自然を学ぶ活動をより一層進めなければなりま  
せん。

一方で、収集してきた資料が増加し、保管場所の確保が問  
題となってきております。山積する資料の整理や収蔵計画の見  
直しが求められています。さらに、地域住民や観光客のニーズ  
にも対応可能な新しい展示手法を取り入れた施設作りを進める  
必要があります。

また、斜里町では、昭和40年代から現在まで続く各種開発  
事業に伴う緊急発掘調査が続いています。発掘された莫大な考  
古資料を整理・保管する斜里町埋蔵文化財センターも老朽化し  
手狭になり、代替施設の確保に向けての検討が必要です。

## 目的・目標

文化財や歴史的資料、標本、自然環境等の研究を通じて、成  
果を社会に還元します。

また、町内外へ積極的に情報発信を行い、学習機会を提供す  
ることができる高い専門性をもった組織体制と、地域の財産を  
長期的に保管・公開可能な施設を整備します。

## 単位施策

	単位施策名称	内容	町民参加・協働
1	活発な利用と資料の 長期保存できる施設の整備	幅広い世代の地域住民や観光客、研究者、ボランティアと いった多様な利用者にとって魅力ある施設づくりをすす めるとともに、老朽化した展示や収蔵庫、埋蔵文化財セン ターの更新・改修を計画的に行います。特に自然史資料や 歴史資料の保存環境の悪化と収容スペースの不足につい て改善を進めるため、収蔵展示も可能な新たな収蔵庫や 資料の長期保存に耐える保管環境の整備を行います。	 参加・協力・連携・協働 中
2	幅広い情報発信と 郷土学習機会の提供	新しい技術を用いた多様な情報発信手段を用いて、地域 に対してはもちろん、国内外に対して斜里町や世界自然 遺産知床の情報を広く発信していきます。博物館施設や 学芸員の教育現場における活用など学校教育との連携強 化を図り、地域の子供たちの学習活動を幅広く支援しま す。これらの活動を通じて、地域の歴史や自然を理解し、 誇りを持って守り育てていくことができる人材を育成し ます。	 参加・協力・連携・協働 中

み  
ど  
りし  
ご  
とま  
ち  
な  
みく  
ら  
しい  
き  
い  
きま  
な  
びち  
ょう  
み  
ん



	単位施策名称	内容	町民参加・協働
3	調査・研究・交流の推進	博物館活動の成果を社会へ還元するために、現地調査や資料調査、最新情報の収集を積極的に推進します。また、姉妹町友好都市との交流や、学会活動など国内外の関係機関との学術交流を通じて、資料収集や交換を計画的にすすめ、展示更新や教育普及に関わる活動を充実させます。	 参加・協力・連携・協働 中
4	博物館資料・文化財の公開と活用の推進	文化財や歴史・自然誌資料の保存と利活用を促進するため、全ての博物館活動の根幹をなす各分野における体系的な資料収集、保存作業や利活用を促進するために欠かせない資料整理やデータベース化をすすめ、それら情報の適正な公開を可能とする体制づくりを検討します。歴史的な建造物等の保存を検討します。	 参加・協力・連携・協働 中

## 成果指標

		H25	H30	H35
1	知床博物館入館者数	11,300人 (予想人数)	11,500人	12,000人
2	博物館活動への満足度	満足度 調査実施	満足度 H26年度の 3%アップ	満足度 H30年度の 3%アップ
3	博物館講座・講演会等の参加人数(町民を対象)	1,100人 (H24年度 人数)	H25年度の 3%アップ	H30年度の 3%アップ
4	学校や地域との連携事業数	20事業	25事業	25事業
5	博物館情報アクセス数	実施	H26年度の 3%アップ	H30年度の 3%アップ
6	展示物の更新点数	10点 (H23~25)	10点 (H26~30)	10点 (H31~35)